



四方にわたっている。この範囲内に縦横に堀、石垣を廻らした巨大な城郭である。築城時の天守閣は4重5階建てで、松平文庫に残る絵図によると、石垣を含んだ高さは約37mであり、現在の11階建のビルに相当する。最近では10階建のビルといっても誰も驚かないが、今から半世紀前には10階以上のビルは福井県



福井城天守閣跡

内には皆無だったのではないだろうか。これを考えると、今から約420年前に築かれた福井城天守閣の巨大さは驚異的なものであったであろう。残念ながらこの天守閣は寛文9年の大火で焼失し、以後再建されることはなく、その寿命は60余年に過ぎなかった。天守閣焼失後は、本丸の隅櫓2基を3階に改修し、天守閣の代用としたが、隅櫓とはいえず、その規模は10万石程度の大名の天守閣に相当し、これを2基備えた福井城は明治初期に取り壊されるまで約200年もの間、福井城の象徴としてそびえ立ち、北陸の名

櫓の復元より県庁舎移転が先！

県政の中枢を担う建物が遺構である石垣や堀に守られるように建つのは異様な光景だ。

権力の象徴のようにお堀の中に鎮座する福井県庁舎。「福井城」の本丸に建っていることから「最強の県庁」の異名を持つ。現在、新たな県都のシンボルと称し櫓と土塀の復元工事を進めているが、権力の誇示にしか見えない。「福井城址公園」を整備し一般開放すべく、県庁舎移転の論議が先ではないか。

北陸の名城「福井城」の中心に

お堀の中の福井県庁は、「福井城」の本丸跡に建っている。本丸とは、お城の中心地でありお殿さまが住む館（本丸御殿）がある場所だ。福井市中央公園や順化小学校など二の丸や三の丸に官公庁や学校が

つくられるケースは全国の城によくあるが、本丸が再利用されているのは珍しい。

福井城の本丸跡に地上11階の福井県庁がそびえ、右に地上3階の福井県議会事堂、左に地上6階の福井警察本

部。県政の中枢を担う建物が遺構である石垣や堀に守られるように建っていることから「最強の県庁」の異名を持つ。お堀の中に本丸御殿の県庁舎、諸大名が詰める県議会事堂、大岡越前が采配を振る県警察本部があり、同心や与力が朝の通勤時になるとせわしく福井城へと登城する。まさに福井幕府の如く、不思議

な光景である。福井城は関ヶ原の戦いの後、徳川家康の次男、結城秀康が、越前68万石の居城として従来の北の庄城を大改修して築いたものであり、約270年間17代にわたって越前松平家の繁栄の舞台となった名城である。その範囲は、東は荒川、南は足羽川、西は現在の片町、北は現在の松本まで、ほぼ2キ